

# Learning APA Style: Basic

ver. 2.1.5

An instructional guide for learning the style rules of the *Publication Manual* (6th ed.)  
of the *American Psychological Association*

住 政二郎

seisumi@lang-tech.net

LET 関西支部・メソドロジー研究部会

1. はじめに.....	4
2. APA Style について .....	4
3. 論文構成.....	5
Title .....	5
Abstract .....	5
Introduction.....	5
Method .....	6
Results.....	6
Discussion.....	7
References.....	7
Footnotes.....	7
Tables & Figures.....	7
4. Format .....	7
Level of Heading.....	7
5. References.....	8
共通ルール.....	8
5.1 Books .....	9
5.2 Journals .....	10
コラム： LET 学会機関誌・投稿用チェックリスト .....	11
6. Citation.....	11
共通ルール.....	11
6.1 直接引用.....	11
6.2 間接引用.....	12
7. Tables and Figures .....	13
7.1 Tables.....	13
7.3 Figures.....	14
コラム： Table はタイトルで, <i>Figure X</i> . はキャプション? .....	15
8 Seriation .....	15
9. Others .....	16
Tense (APA, 2009, p. 65–66) .....	16
that と which の使い分け (APA, 2009, p. 83).....	16
Hyphenation (APA, 2009, p. 97) .....	16
em dash .....	17
en dash.....	17
Capitalization .....	17

括弧の取り扱い.....	18
ラテン語の省略形 (APA, 2009b, 4.26, p. 108).....	18
数字の取り扱い.....	18
少数.....	18
Plagiarism and Self-Plagiarism.....	19
倫理規定.....	19
・コラム：分析手法の選択とデータの保管.....	19
APA 参考サイト一覧 (2010 年 9 月 10 日現在) .....	20
文献一覧.....	20

## 1. はじめに

APA とは, *American Psychological Association* の略称で, APA が定める出版物(電子メディアを含む) 一般のフォーマットのことを指します。APA Style は, 出版物の書式, 書き方, 図表, および参考文献の表記の仕方など, 出版物に関する幅広い規定を詳細に定めています。APS Style は, 心理学系の学問を中心に, 外国語教育学の分野でも, 幅広く採用されています。詳しくは, APA Style のホームページ (<http://apastyle.apa.org/>) を参考にしてください。

本書は, 広範囲に及ぶ APA Style (第 6 版) の中から, レジユメの作成や論文執筆の際に必要な基本的な項目を選び, 参照頻度の高いと思われる順序で編集しました。本書で紹介されていない事項に関しては, APA (2009a, 2009b) を参考にしてください。

## 2. APA Style について

APA Style は, わずか 7 ページの規定として 1929 年に誕生しました。その後, 改訂を重ね, 2009 年には第 6 版が発行されました。その間, 多くの専門家の時間と労力が費やされ, APA Style は改訂されてきました。なぜ出版物に関する詳細なルールが必要なのか? その必要性について, APA (2001) には以下のように書かれています。

This standardization has greatly facilitated the communication of new ideas and research and simplified the tasks of publishers, editors, authors, and readers as well as enabled linkages of electronic files across articles and across publishers. (p. xxi)

また, ルールに準拠し研究・教育の成果を積み重ねていくことの重要性について, 第 6 版 (APA, 2009) では, 次のように書かれています。“Research is complete only when the results are shared with the scientific community....The scientific journal is the repository of the accumulated knowledge of a field” (p. 9).

そして, APA Style の目的は, 以下の 3 つであることが書かれています。

These long-standing principles are designed to achieve three goals:

- to ensure the accuracy of scientific knowledge,
- to protect the rights and welfare of research participants, and
- to protect intellectual property rights. (APA, 2009, p. 11)

### 3. 論文構成

第6版では、一般的な論文構成について以下のように述べられています。

... we describe a set of reporting standards relating to the material recommended to appear in (a) the abstract; (b) the introduction of the research problem; (c) subsections of the method section describing the characteristics of the participants; sampling procedures; sample size, power, and precision; measures and covariates; and the general descriptor of the research design; (d) the statistical results; and (e) the discussion of results. (APA, 2009, p. 22)

#### Title

「タイトル」を付ける際には以下の点に注意することが述べられています (APA, 2009, p. 23)。

- 省略文字を用いずスペルアウトすること
- タイトルは12英単語以内でおさめること
- A Study of または An Experimental Investigation of などの表現は用いないこと
- method または results といった単語は避けること

#### Abstract

このセクションでは、以下の点を含むことが述べられています (APA, 2009, p. 26)。

(実証研究の場合)

- 研究の主題 (the problem under investigation) , 可能であれば一文で
- 参加者の特性 (年齢, 性別など)
- 研究手法
- 結果 (効果量, 信頼区間, 統計的有意性)
- 結論, 示唆または応用

文献研究, メタ分析, および事例研究などの要約については, 必要項目が別途定められています (APA, 2009, pp. 26–27)。

#### Introduction

このセクションでは, 以下の質問に答えるように執筆することが必要とされています (APA, 2009, p. 27)。

- なぜ論文の主題は重要なのか?
- 先行研究との関係性は? 先行研究との差異は何か? 先行研究を踏まえ, 何を上乘

せするのか？

- 研究の目的および仮設は何か？ あるとすれば理論との関係性は何か？
- 仮説とリサーチデザインは、どのように関係しているのか？
- 理論的および実践的示唆は何か？

## Method

このセクションは **Participants or Subjects**（参加者）と **Procedures**（方法）とに通常分けられます。その上で、該当する以下の下位項目について記述する必要があることが述べられています。

- 参加者の特性
- サンプリングの方法
- サンプルサイズ，検出力，および適合率または信頼区間
- データ収集法，使用装置
- リサーチデザイン
- 処置的状况・操作または干渉の程度

## Results

このセクションでは、収集されたデータおよび分析結果について記述します。結論に関連するデータはすべて開示することが必要です。その上で、該当する以下の下位項目について記述する必要があることが述べられています。

- 参加者の募集期間に関する情報 (**Recruitment**)
- 分析結果：仮説に対する記述，効果量および信頼区間に関する報告\*
- 補足的に実施された分析の結果
- 処置群および対象群の参加者に関する詳細
- 処置的状况・操作または干渉の結果
- 基本データ

\* APA Style では、分析に採用された統計手法によって提示が必要とされるデータは異なるとしながらも次のように述べています。“...complete reporting of all tested hypotheses and estimates of appropriate effect sizes and confidence intervals are the minimum expectations for all APA journals” (APA, 2009, p. 33). 効果量については、水本・竹内 (2008) を参考にしてください。

## Discussion

このセクションでは、結果に基づく解釈を行うことができます。その際には、Introduction（「はじめに」）で提示された仮設に明示的に答える必要があります。解釈は過度な一般化を避け、limitations を考慮する必要があります。その上で、Conclusion（結論）を述べます。

## References

参考文献については後述します。

## Footnotes

APA Style では、注はすべて文末脚注です。通例、footnote はページ毎に付記される脚注を指し、endnote が文末脚注を指しますが、APA Style では、Content footnotes として、一括して References の後に一括して付記することが定められています (APA, 2009, 2.12, pp. 37-38)。LET 学会機関誌では、endnote の形式を採用し、参考文献の前に配置することになっています。

## Tables & Figures

APA Style では、図表は一括して Footnotes の後に、図表毎に 1 ページを割付けることが定められています。図表の基本的な項目については後述します。LET 学会機関誌では、文章の流れを妨げないように、文中に埋め込むことになっています。

## 4. Format

### Level of Heading

APA Style では、以下のように見出しを記述することが定められています。レベル 3 以降のフォーマットに関しては、APA (2009, 3.03, p. 62) を参考にしてください。

Level	Format
1	<b>Centered, Boldface, Uppercase and Lowercase Heading</b>
2	<b>Flush Left, Boldface, Uppercase and Lowercase Heading</b>
3	<b>Indented, boldface, lowercase paragraph heading ending with a period.</b>

LET 学会機関誌では、以下のように見出しを記述することが定められています。

Level	Format
1	<b>1. Flush Left, Boldface, Uppercase and Lowercase Heading</b>
2	<b>1.1 Flush Left, Boldface, Uppercase and Lowercase Heading</b>
3	<b>1.1.1 Flush left, boldface, lowercase except the first word</b>

## 5. References

### 共通ルール

APA Style では、著者と発行年の情報をセットで扱う **author-date citation system** を採用しています。出版形態を問わず、参考文献一覧の基本フォーマットは以下のとおりになります。

著者名 (発行年). タイトル: サブタイトル. 発行地: 出版社.

日本語出版物の場合、LET 学会機関誌の規定では発行地の情報は不要です。日本語出版物に関しては、「LET 学会機関誌投稿用・日本語テンプレート」 (<http://www.j-let.org/?a=203>) を参考にしてください。

参考文献一覧は、筆頭著者の姓の表記に従い、アルファベット順に列記します。

著者名の姓は、スペルアウトし、名はイニシャルのみを表記します。イニシャルの終わりには、省略情報があることを意味するピリオド (.) を付記します。

タイトルとサブタイトルは、イタリックで表記し、その間は、コロン (:) で結びます。なお、タイトルとサブタイトルを結ぶコロン (:) も、イタリックにします。

タイトルとサブタイトルを結ぶコロンの後、サブタイトルの前には、半角スペースを必要とします。

タイトルとサブタイトルの頭文字のみを大文字で表記し、それ以外は、固有名詞を除き、すべて小文字で表記します。

著者が 7 人以内の場合、参考文献一覧では、すべての著者を列記します。著者が 8 人以上の場合、最初の 6 人まで列記し、その後に省略記号 ... を付記し、最後の著者の名前を列記します。尚、最後の著者の直前に & は不要です (APA, 2009b, 6.27, p. 184, e.g., APA, 2009b, 7.01[2], p. 198)。

出版社所在地が複数存在する場合、先頭の出版社所在地を付記します。

主にジャーナルなどオンラインで入手可能で、DOI (digital object identifiers) が付記されているものは、参考文献一覧にも明記します。DOI とは、インターネット上の出版物に恒久的に付与された識別子です。詳細については以下のホームページを参考にしてください。

The DOI<sup>®</sup> System (<http://www.doi.org/>)

Author, A. A., Author, B. B., & Author, C. C. (year). Title of article: *Title of Periodical*, xx, pp–pp. doi:xx.xxxxxxx

doi と識別番号を結ぶコロンの間にスペースは不要です。

オンラインで入手可能で、DOI が付与されていない出版物に関しては、URI を付与することが第 6 版から義務付けられました。

Author, A. A., Author, B. B., & Author, C. C. (year). Title of article: *Title of Periodical*, xx, pp–pp. Retrieved from <http://www.xxxx.xxxx.xxxx.html>

ページ番号の連結には、em dash (—) や hyphen (-) ではなく、en dash (–) を使います。このことは LET 学会機関誌日本語・英語テンプレートにも明記されています。

引用される出版物の形態によって表記の仕方は異なります。詳細は、APA (2009, Chapter 7) を参考にしてください。

## 5.1 Books

### 単著の場合

Karmiloff-Smith, A. (1992). *Beyond modularity: A developmental perspective on cognitive science*. Cambridge, MA: MIT Press.

### 共著の書籍：著者が 2 人以上で且つ 7 人以内の場合

Huston, A. C., Wartella, E., Donnerstein, E., Scantlin, R., & Kotler, J. (1998). *Measuring the effects of sexual content in the media: A report to the Kaiser Family Foundation*. Oakland, CA: The Kaiser Family Foundation.

### 共著の書籍：著者が 8 人以上の場合

Author, 1., Author 2., Author, 3., Author, 4., Author, 5., Author, 6., ... Author, X. (year). *Title of work*. Book title. Location: Publisher.

### ポイント

- 著者が複数存在する場合はコンマで列記します。共著者が 7 人以内の場合、最後の著者の前にアンパサンド (ampersand, &) を付記します。
- 電子書籍など、doi が付与されているものは付記します。

### 編者がいる場合：編者が 1 人の場合

Reis, H. T., & Shaver, P. (1988). Intimacy as an interpersonal process. In S. Duck (Ed.), *Handbook of personal relationships: Theory, research, and interventions* (pp. 367–389). Chichester, UK: Wiley.

### 編者がいる場合：編者が 2 人の場合

Berndt, T. J., & Savin-Williams, R. C. (1993). Peer relations and friendships. In P. H. Tolan & B. J. Kohler (Eds.), *Handbook of clinical research and practice with adolescents* (pp. 203–219). Oxford, England: Wiley.

### 編者がいる場合：編者が3人以上で且つ7人以内の場合

Boneva, B. S., Quinn, A., Kraut, R. E., Kiesler, S., & Shklovski, I. (2006). Teenage communication in the Instant Messaging era. In R. Kraut, M. Brynin, & S. Kiesler (Eds.), *Computers, phones, and the Internet: Domesticating information technology* (pp. 201–218). Oxford: Oxford University Press.

#### ポイント

- 編者は、論文タイトルの後に、(In 名[イニシャル]. 姓[スペルアウト]) の順番で表記します。論文著者の表記の仕方とは順番が逆になるので注意してください。
- 編者が1人の場合は、In S. Duck (Ed.), のように表記します。
- 編者が2人の場合は、In P. H. Tolan & B. J. Kohler (Eds.), のように表記します。編者の間に & が入っていることに注意しましょう。なお、編者が2人の場合、& の直前にはコンマ (,) は入りません。
- 編者が3人以上で且つ7人以内の場合は、In R. Kraut, M. Brynin, & S. Kiesler (Eds.), のように表記します。& の直前にコンマ (,) が入ります。
- 編者が8人以上の規定について、第6版には明記されていませんが、著者が8人以上いるケースと同等の扱いと考えられます。
- 電子書籍など、doi が付与されているものは付記します。

## 5.2 Journals

Herbst-Damm, K. L., & Kulik, J. A. (2005). Volunteer support, marital status, and the survival times of terminally ill patients. *Health Psychology, 24*, 225–229. doi:10.1037/0278-6133.24.2.225

#### ポイント

- 著者名の表記ルールは、書籍の場合と同じです。
- 論文タイトルは、イタリックにはしません。論文タイトルの最後にはピリオド (.) が必要です。
- 論文タイトルの後は、「ジャーナル名、巻(号)、ページ番号」の順番で情報を付記します。ジャーナル名と巻の情報は、イタリックで表記します。なお、号の情報は、本文中で参考にしてある論文が、巻ごとに続き番号で編集してある場合は付記しません。
- オンラインジャーナルで且つ doi が付記されていない場合、入手した URL を Retrieved from として付記します。その場合、URL の最後にはピリオド (.) は不要です。

## コラム： LET 学会機関誌・投稿用チェックリスト

LET 学会機関誌・投稿用チェックリストが学会ホームページにあります。LET 学会誌に投稿するためだけではなく、論文投稿時に求められる一定の基準をクリアするための指標としても有用です。是非、ご利用ください。 <http://www.j-let.org/?a=203>

## 6. Citation

### 共通ルール

APA Style では、著者と発行年の情報をセットで扱う **author-date citation system** を採用しています。

著者が 2 人以内の場合、本文中の引用箇所では、著者全員を常に列記します。著者が 3 人以上且つ 5 人以内の場合、初出の引用箇所では著者全員を列記し、2 回目以降は、第 1 著者名のみ表記し、**et al.** で省略します。著者が 6 人以上いる場合、初出から第 1 著者名のみ表記し、**et al.** で省略します (APA, 2009b, 6.12, p. 175)。

参考資料が段落内で複数回引用される場合、2 回目以降は年号の情報を省略することができます。

本文中で複数の著者名を列記する場合は **and** を用い、括弧のなかで列記する場合は、**&** を用います。

本文中で他者の著作物を引用する場合には、他者の著作物の記述をそのまま引用する直接引用と、他者の著作物の記述をまとめて引用する間接引用があります。

ホームページなどの記述を引用する場合、ページ番号の表記がない場合があります。その場合、ページ番号の代わりに段落を示す **para.** を用います。

Basu and Jones (2007) went so far as to suggest the need for a new “intellectual framework in which to consider the nature and form of regulation in cyberspace” (para. 4).

### 6.1 直接引用

Egbert (2005) mentioned that “CALL means learners learning language in any context with, through, and around computer technologies” (p. 4).

#### ポイント

- 他者の著作を引用する場合、40 単語以内であれば、本文中に引用することができます。
- その場合、引用箇所は、ダブルクォーテーションで囲みます。
- 引用箇所にダブルクォーテーションが使われている場合、その個所をシングルクォーテーションに変更します。
- 引用箇所の最後にページ番号を沿え括弧でくくります。

- 引用箇所の文末にはピリオドを付記せず、ページ番号の括弧の外に付記します。
- 著者の人数による表記の違いについては、共通ルールに従います。

## 6.2 間接引用

Crookall, Coleman, and Oxford (1992) provide one of the most articulate admonishments to researchers to pay attention to the dynamics of the entire teaching and learning context, not just the machine or the machine and a learner.

(Meskill, 2005, p. 33)

### ポイント

- 著者が複数人存在する場合は、and を使って列記します。
- and の直前には (,) コンマを付記します。
- 著者の人数による表記の違いについては、共通ルールに従います。
- 間接引用の際にも、章番号やページ番号を添えることが推奨されています (APA, 2009, 6.04, p. 171)。

### 複数の著作に基づき主張を裏付ける場合

The shift from regression in the previous study to structural equation modeling in the present study made it possible to estimate a reciprocal relationship between variables (Bollen, 1989; Holbert & Stephenson, 2002).

(Yan, 2006, p. 425)

One study has shown that preschoolers who are low on shyness have higher creativity scores (Kemple, David, & Wang, 1996).

(Raine et al., 2002)

### ポイント

- 著作物は発行年の後にセミコロンを付記し連結します。
- 著作物の順番はアルファベット順になります。
- 2人の著者がいる場合、著者名を & で連結します。& の前にコンマは不要です。  
(e.g., Holbert & Stephenson, 2002)
- 3人以上且つ5人以内の著者が存在し且つ初出引用の場合、著者名をコンマで区切り列記し、最後の著者の前に & を付記します。  
(Kemple, David, & Wang, 1996)
- 著者の人数による表記の違いについては、共通ルールに従います。

## 7. Tables and Figures

### 7.1 Tables

Table 2  
*Correlations Between Neurotic Hostility (NH) and Aggressive Hostility (AH) With Other Personality Traits*

Trait	NH	AH
Primary factors		
Satisfaction with life	-.56*	.12
Altruism	.02	-.22
Ambitiousness	.03	.13
Inhibition	.06	-.14
Irritability	.70*	-.11
Aggression	.54*	.46*
Stress experience	.54*	-.21
Psychosomatic complaints	.52*	-.22
Worries about health	.12	.09
Openness (inverted lie scale)	.54*	.13
Secondary factors		
Extraversion	.04	.05
Neuroticism	.72*	-.06

Note.  $N = 48$ .

\* $p < .01$ .

(Henning, et al., 2005, p. 19)

#### ポイント

- 表の上部左寄で Table X と表記します。X は、アラビア数字の通し番号を付記します。また、X の後にピリオドは不要です。
- Table X 後に改行し、表のタイトルを付記します。タイトルは、機能語を除き、各単語の先頭を大文字し、イタリックで表記します。タイトルの最後にピリオドは不要です。
- 表中の単語は、先頭のみ大文字にします。
- 表下の情報は、以下の優先順位で提示します。

Note. The participants ... responses. [general note]

<sup>a</sup> $n = 25$ . <sup>b</sup> $n = 42$ . [specific note]

\* $p < .05$ . \*\* $p < .01$ . [probability note]

- 表のレイアウトについては、Nicol and Pexman (2009b) を参考にしてください。
- すでに出版された表を二次利用する場合には、著作権保有者および出版社からの掲載許諾を得る必要があります (APA, 2009b, 5.06, p. 128)。またその旨を表の Note. に以下のように付記する必要があります。

Adapted from “article’s title,” by A. Author, B., Author, and C. Author, year, *Journal Name*, xxx, p. xxx. Copyright year by the Publisher.

- 表が複数ページに渡る場合、先頭ページの表の下に (Table continues) と付記していき、最後のページの表の上に (Table continued) と付記します (Nicol & Pexman, 2009b, p. 9, e.g., Nicol & Pexman, 2009b, pp. 141–142)。
- 表の豊富な事例に関しては、Nicol and Pexman (2009b) を参考にしてください。

### 7.3 Figures

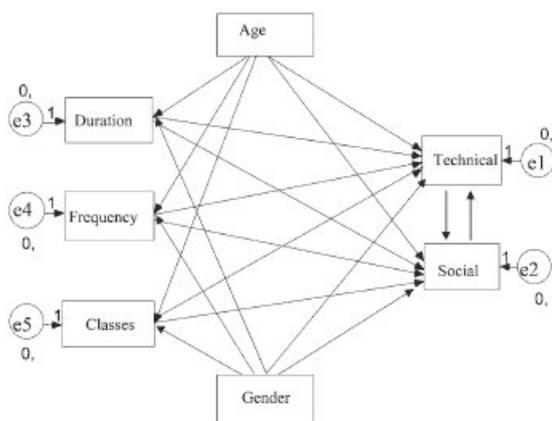


Figure 1. The hypothesized path model examining effects of three Internet-use variables, duration of Internet use (Duration), frequency of Internet use (Frequency), and informal Internet classes (Classes), and two Internet-user variables, Age and Gender, on two Internet-effect variables, children’s understanding of the technical complexity of the Internet (Technical) and children’s understanding of the social complexity of the Internet (Social).

(Yan, 2006, p. 420)

#### ポイント

- 図の下部左寄で *Figure X*. と表記します。X は、アラビア数字の通し番号を付記します。*Figure X*. はイタリックで表記します。X の後にはピリオドを付記します。Table との表記の違いに注意してください。
- *Figure X*. の後に連続して、図の説明—キャプション—記述します。
- 図の説明—キャプション—は、センテンスになります。そのため文頭は大文字で、文末はピリオドで終わります。
- 図の中の文字 (figure legends) には、8～14 ポイントのひげやうろこなどの装飾のないサンセリフ体 (sans serif) の利用が推奨されています。代表的なサンセリフ体としては、Arial があります。
- すでに出版された図を二次利用する場合には、著作権保有者および出版社からの掲載許諾を得る必要があります (APA, 2009, 5.06, p. 128)。そしてその旨を図のキャプションに以下のように付記する必要があります。

Adapted from “article’s title,” by A. Author, B., Author, and C. Author, year, *Journal Name*, xxx, p. xxx. Copyright year by the Publisher.

- 表の豊富な図の事例に関しては、Nicol and Pexman (2009a) を参考にしてください。

## コラム：Table はタイトルで、Figure X. はキャプション？

なぜ、Table はタイトルで、Figure X.はキャプションと呼ぶのか、という理由について考えてみました。Table は数量的なデータで表現され、その意味は明示的です。それに対して Figure は図で、その判断は読者に委ねられます。そのため、キャプションを添え、図に対して補足説明をする必要が生じるのではないのでしょうか？ APA に投稿されるジャーナルの Figure のキャプションは数行に渡るのが一般的です。おそらくこんな理由だと思います。

## 8 Seriation

APA Style では、箇条書きを本文中に列記する場合と、段落を分けて列記する場合には、異なるルールが適用されます (APA, 2009b, 3.04, p. 64)。

### 本文中に列記する場合

The participant’s three choices were (a) working with another participant, (b) working with a team, and (c) working alone.

上記の場合、各要素は、括弧で囲まれた小文字アルファベットによって連結します。

### 段落に分けて列記する場合

Using the learned helplessness theory, we predicted that the depressed and nondepressed participants would make the following judgments of control:

1. Individuals who... [paragraph continues].
2. Nondepressed persons exposed to... [paragraph continues].
3. Depressed persons exposed to... [paragraph continues].
4. Depressed and nondepressed participants in the no-noise groups... [paragraph continues].

上記の場合、各要素は、アラビア数字ではじめ改行して列記します。アラビア数字の代わりに ▪ を用いることもできます。こうすることで列記される情報を並列化して提示することができます。

In accordance with this theory, these relations should be marked by

- equity, social justice, and equal opportunity;
- sensitivity to individual differences and promotion of a goodness-of-fit between individually different people and contexts;

- affirmative actions to correct ontogenetic or historical inequities in person-context fit;
- efforts to recognize and celebrate diversity; and
- promotion of universal participation in civic life, and hence democracy (Lerner, Balsano, Banik, & Naudeau, 2005, p. 45).

尚、文中に列記する箇条書き要素が、要素内にコンマを持たない場合は、各要素間をコンマで連結します。しかし、文中に列記する箇条書き要素が、要素内にコンマを持つ場合は、各要素間をセミコロンで連結します (APA Style, 2009, 3.04, p. 64)。

列記する各要素がコンマを持たない場合：

The participant's three choices were (a) working with another participant, (b) working with a team, and (c) working alone.

列記する各要素がコンマを持つ場合：

We tested three groups: (a) low scorers, who scored fewer than 20 points; (b) moderate scorers, who scored between 20 and 50 points; and (c) high scorers, who scored more than 50 points.

## 9. Others

### Tense (APA, 2009, p. 65–66)

APA Style では、セクション毎に以下の時制を用いることが推奨されています。

Section	Tense
Literature Review and Procedure	Past or Present Perfect
Results	Past
Discussion and Conclusions	Present

### that と which の使い分け (APA, 2009, p. 83)

APA Style では、関係代名詞の制限用法では **that** を用い、非制限用では **which** を用いることが推奨されています。

that: restrictive clauses (制限用法)

which: non-restrictive clauses (非制限用法)

### Hyphenation (APA, 2009, p. 97)

APA Style では、em dash と en dash について厳密な使い分けがされています。

## em dash

em dash は、文中に説明を挿入する場合などに用います (e.g., Studies—published and unpublished—are included)。em dash の前後にスペースは入りません。em dash は、厳密には、和文字形の全角ダッシュとは異なります。em dash は Unicode で u+2014 に該当し、全角ダッシュは u+303C に該当します。全角ダッシュは原稿用紙のマス目中央に配置されるのに対して em dash はやや下方に位置します。これは欧文字形の em dash を和文字形の全角ダッシュに変換したために発生した問題と考えられます。

em dash



全角ダッシュ



em dash は Alt + 0151 , Alt + Ctrl + Num - で挿入することができます。また、2014 と入力して、2014 を範囲選択して反転した後、[Atl + X] で変換すると em dash になります。

## en dash

en dash は、主に 2 点の区間を意味します (e.g., Osaka–Tokyo, pp. 100–120)。en dash の前後にスペースは入りません。en dash は、厳密には半角ダッシュとは異なるようですが、半角ダッシュを使って表記が可能です。半角ダッシュは、特殊文字の機能を使って挿入することができます。また、Alt + 0150 , Ctrl + Num - で挿入することもできます。em dash と同様、2013 と入力して、2013 を範囲選択して反転した後、[Atl + X] で変換すると en dash になります。LET 学会機関誌では、執筆言語を問わず、ページ間の表記には en dash の利用が義務づけられています。

## Capitalization

著者名が小文字ではじまる場合も、文頭では大文字にします (APA, 2009, p. 101)。

*Correct:*

De Waal (1994) concluded the following

*Incorrect:*

de Waal (1994) concluded the following

コロンの後にセンテンスが続く場合、先頭の単語は大文字ではじめます。

The author made one main point: No explanation that has been suggested so far answers all questions.

## 括弧の取り扱い

括弧内では、同じ種類の括弧を使用せず、ブラケット [角括弧] を使います。

(誤) (Computer Assisted Language Learning (CALL))

(正) (Computer Assisted Language Learning [CALL])

## ラテン語の省略形 (APA, 2009b, 4.26, p. 108)

ラテン語の省略形は、括弧内やコンマで区切る場合にのみ使います。本文中では、ラテン語の省略形ではなく、英語表記を使います。

cf.	compare	i.e.,	that is,
e.g.	for example,	viz.,	namely,
,etc.	, and so forth	vs.	versus, against

## 数字の取り扱い

以下の場合、アラビア数字を用います。

- 10 以上の数字
- 要約および図表の中の数字
- 単位を伴う数字 (e.g., with 10.54 cm of)

以下の場合、英語表記を用います。

- 測定値ではない、10 より小さい数字 (e.g., five students)
- 文頭が数字ではじまる場合 (数字で文章をはじめるのは避けるのが好ましい)

以上はすべてのケースではありません。個別のケースについては、APA Style (6th ed.) を参考にしてください (APA, 2009b, 4.31, p. 111)。

## 少数

数が 1 未満の場合は、小数点の前に 0 を使います。

0.23 mm, 0.57 s

ただし、1 を越えるはずのない値の場合は、小数点の前に 0 を付けてはいけません。例えば、相関係数、割合、統計的有意レベルなどがあげられます。

小数点以下の桁数の表記は、小数点以下第 2 位までに丸めます。これは、危険率が小数点以下第 2 位 ( $p < .01$ ) で表記されることに従っています。

## Plagiarism and Self-Plagiarism

APA Style では、Plagiarism (剽窃) と Self-Plagiarism (自己剽窃) を禁止しています。Self-Plagiarism は、第 6 版になって追加された用語です。これは、すでに出版または発表された著作物を、あたかも新規の著作物として出版または発表することを指します。Self-Plagiarism の詳細については、APA (2009, 1.10, p. 16) を参考にしてください。

## 倫理規定

APA Style では、論文執筆に必要なフォーマットのみならず、研究における責任と倫理に関しても細やかな規定を設け、内容以上に重要視しています。研究協力者への調査、録音、および撮影などに関する同意が必要なことは言うまでもありません。

### ・コラム:分析手法の選択とデータの保管

分析手法の選択とデータの保管に関して以下のように APA Style (5th ed.) には書かれています。とても大切なことが書かれているように思います。

Authors are responsible for the statistical method selected and for all supporting data. Access to computer analyses of data does not relieve the author of responsibility for selecting the appropriate data analytic techniques. To permit interested readers to verify the statistical analysis, an author should retain the raw data after publication of the research. Authors of manuscripts accepted for publication in APA journals are required to have available their raw data throughout the editorial review process and for at least 5 years after the date of publication.... (APA, 2001, 3.53, p. 137)

「著者は、選択した統計手法と結論を裏づけるすべてのデータに対して責任がある。いくらデータ分析にコンピュータを利用したとしても、適切なデータ分析手法を選択する責任を著者が免れることはない。その統計分析に関心をもった読者があとから検証できるように、著者は研究の発表後も生データを保管しておくべきである。APA 発行の学術誌に採用された原著の著者は、査読の全期間および発行日以後の少なくとも 5 年間、生データを利用できるようにすることが求められる」(江藤・前田・田中, 2004, p. 124)。

## APA 参考サイト一覧(2010年9月10日現在)

- APA Style Resources  
<http://www.psywww.com/resource/apacrib.htm>
- The DOI System  
<http://www.doi.org/>
- LET 学会機関誌各種テンプレート&チェックリスト  
<http://www.j-let.org/?a=203>
- James Cook University: APA Referencing  
<http://www.library.jcu.edu.au/LibraryGuides/apa.shtml>
- Literacy Education Online  
<http://leo.stcloudstate.edu/research/apadocument.html>
- 日本心理学会 (「執筆・投稿の手引き」)  
<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>
- The University of WAIKATO: APA Reference Style  
[http://www.waikato.ac.nz/library/learning/g\\_apaguide.shtml](http://www.waikato.ac.nz/library/learning/g_apaguide.shtml)
- em dash と en dash について  
<http://goo.gl/xMM7>

## 文献一覧

- American Psychological Association (2001). *Publication manual of the American Psychological Association* (5th ed.). Washington, DC: Author.
- American Psychological Association. (2009a). *Concise rules of APA style* (6th ed.). Washington, DC: Author.
- American Psychological Association. (2009b). *Publication manual of the American Psychological Association* (6th ed.). Washington, DC: Author.
- Egbert, J. L. (2005). Conducting research on CALL. In J. L. Egbert & G. M. Petrie (Eds.), *CALL research perspectives* (pp. 3–21). Mahwah, N. J.: Lawrence Erlbaum Associates.
- 江藤裕之・前田樹海・田中健彦 (訳) (2004). 『APA 論文作成マニュアル』医学書院.
- Henning, J., Reuter, M., Netter, P., Burk, C., & Landt, O. (2005). Two types of aggression are differentially related to serotonergic activity and the A779 TPH polymorphism. *Behavioral Neuroscience*, 119, 16–25. doi:10.1037/0735-7044.119.1.16
- Meskill, C. (2005). Metaphors that shape and guide CALL research. In J. L. Egbert & G. M. Petrie (Eds.), *CALL research perspectives* (pp. 25-40). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- 水本 篤・竹内 理 (2008). 研究論文における効果量の報告のために—基礎的概念と注意点 『英語教育研究』 31, 57–66.
- Nicol, Adelheld A. M., & Pexman, Penny M. (2009a). *Displaying your findings: A practical guide for creating figures, posters, and presentations* (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.
- Nicol, Adelheld A. M., & Pexman, Penny M. (2009b). *Presenting your findings: A practical guide for creating tables* (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

- Raine, A., Reynolds, C., Venables, P. H., & Mednick, S. A. (2002). Stimulation seeking and intelligence: A prospective longitudinal study. *Journal of Personality and Social Psychology*, 82, 663–674. doi:10.1037//0022-3514.82.4.663
- Yan, Z. (2006). What influences children's and adolescents' understanding of the complexity of the Internet? *Development Psychology*, 42, 418–428. doi:10.1037/0012-1649.42.3.418